初めての『電子サンスケ』

初めての方は、『電子サンスケ』にどのような画面があり、それぞれの画面で何ができるのかを知りません。 現在、巻末の【総合メニュー】なるものを作成中です。この『電子サンスケ』を俯瞰した説明書を作成中に、【総合メニュー】があれば、きっ と初めての方でもわかり易いだろうと気づき作成することにしました。【総合メニュー】ができるまでの間、『電子サンスケ』の【実践マニュ アル】を実施する方のために本説明書があります。まずは、概要を説明します。そしてそれぞれのソフトの【機能】をここで何となく感じて 下さい。初めて『電子サンスケ』に触れる当たり肩慣らしをするつもりで、不明の言葉は読み飛ばして結構です。読む事に意義あり!

では、いよいよ本題に入りましょう。

『電子サンスケ』は、電子図面を計測し、仕上(内装・外装)・外構・建具周りの材料を拾うソフトです。どんな材料もセットでき、計算式も 自由に打ち込めるので手拾いのように何でも拾えるソフトです

また、電子図面を計測できるので、仮設用に必要な寸法や、整地の際の切り土、盛り土の計算などに活用できます。

具体的な流れ・操作方法は実践マニュアル【初級編】に譲ります。

初級編は個人差により多少の差は出ますが、概ね1日で内装積算・外装積算・外構積算・建具積算を習得できるようになっています。 初級編で一通り『電子サンスケ』の拾いが理解できるようになりましたら、【中級編】・【応用編】で知識を増やし作業性を向上させて下さい。

【初級編】は1日で操作を習得する目的で作成しましたので必要最小限の説明になっています。そういうコンセプトではありますが、 【指定合成複写】機能というちょっと難易度の高い操作も説明しています。実は、これが『電子サンスケ』の真骨頂とでもいうべき、 スピード積算を実現しているからです。初級編としつつも難易度の高い【指定合成複写】まではご理解して頂こうと考えています。 結構レベルの高い機能まで習得してもらおうとレベルアップも虎視眈々と狙っています。

あまり構えず、リラックスして進めて下さい。でも最終的にはこの機能までマスターして下さいね。この機能をマスターした時、電子図面計 測のうま味を使い切っていることを理解できるでしょう。そうなれば、あなたも『電子サンスケ』の達人に近づきます。

更に、積算した結果が増えるほどに積算のスピード化、効率化を実現できます。計算書の【計】【ー計】【同上計】の活用方法は最初は戸惑いますが、慣れれば面白さを感じて頂けると思います。

基本的に手拾いのような作業で補うこともできますから柔軟な使い方ができます。見積書では、工種別の見積集計を自動で行いますので、数量拾いにひたすら集中できます。

#### <余談>

ネット販売『電子サンスケ』は積算ソフトの中では牛丼価格ですがステーキ並みの美味しさを備えているはずです。 実践マニュアル【初級編】を読み終える頃にはステーキの味を噛みしめていることでしょう。(ステーキ!!)

### 『電子サンスケ』の特徴

『電子サンスケ』って、どんなもの? 電子図面で計測するソフトは他にもあるよ!と良く言われます。 そこで興味を持った方が、ここで『電子サンスケ』の特徴に触れ、もっと深く知り、活用したい気持ち に繋がれば大変うれしく思います。 ※聞きなれない言葉は読み飛ばして下さい。不明の言葉は【初級編】で説明が出てきます。

- 1:電子図面を計測し積算します。床・巾木・壁(腰仕上)・天井・廻縁・柱の部位数量を自動作成し ます。計測線に壁属性をセットする事で仕上・下地材の異なる壁を分けて計算式を作成します。 腰仕上面積、巾木面積を全体壁から控除する式は、建具があると特に面倒ですがそれも正確 に計算式を作成します。
- 2:自動作成式へ一括材料複写【指定合成複写】すると拾出しは一気に進みます。(現在、特許出願準備中) 要領よく計算書内での作業時間を時短する方法もあります。(建具以外の数量減数方法)
- 3:図面計測結果は計算式を作るだけで無く、計算式で何度も再利用し作業性を上げています。
- 4:雑関連の拾いは直接図面を数えて計上するのが一般的ですが、『電子サンスケ』は画面上の 図面をクリックするだけで配置でき自動カウントして計算式へ計上します。(貸出版には未搭載) つまり、全ての積算根拠が電子図面に記載されるので一元管理ができます。
- 5:手拾いのように計算式を自由に変更、追記できますので作業性を損ないません。
- 6:拾いが終われば、工種別見積書は自動作成するので拾いに集中できます。
- 7:場所別工種別見積が自在に作れます。A棟・B棟2つの建物を同時に積算したとします。 A棟工種別・B棟工種別の各々の積上明細を造りながら、見積書の1つの工種明細書の中で A棟の材料明細、B棟の材料明細を分けて表示する事ができます。
- 8:過去の見積書を参照しながら、新しい見積書に単価を自動で入れる機能があります。

この機能で、マンションのタイプ別コストや共用部のコストなど場所別に金額が把握できます。 9:過去データを活用できますので、積上方式の概算積算もスピーディに行えます。

# 初期起動画面【物件選択】

最初に

AAuse V6.3

のアイコンをクリックすると下記の画面が出てきます。

物件選択ができます。 最下行はいつも空白に なっており新規物件を 登録する際に使用しま す。 物件Noは半角8文字、

全角4文字が最大です。 数字・アルファベット・カ タカナ・漢字等何でも受け付けます。 同じNoは受付けません。

建物用途・種別・構造 はコンボボックス▼をクリック して選択します。 この3つだけは選択しな いと右のコメントの様に脅 してきます。

物件を選択して、この 画面を開くたびにメッセージが出るので煩わしい 方は、3つのコンボの何 でも構いませんので選 択して下さい。 この種別は将来、概算 用の歩掛を取る為に使 用する予定です。



## 図面計測・仕上拾い・工種別見積作成の流れ

一般的な拾い出し作業をして工種別見積書
 (提出見積)を作成する流れは下記のようになります。
 【F5 サンスケ】・・・図面を計測します。計測結果が画面に残ります。
 ※計測には2種類あります。

ー時計測・・・長さ・面積を単純に測って直接計算書へ転送する。 (他社製品は三角スケール替わりのこの機能が多いです。) 属性根拠を残す計測・・・計測寸法と高さ情報で各拾い場所の 部位の数量計算を自動で行います。 もっとも特徴的なことは壁、柱の種類を 指示できる点です。(仕上・下地の異なる種類)

【F3 仕上作成】・・・計測したデータを元に計算式を組み材料を 各部位にセットし拾い出します。

計算書は 部位・材料名称・材料仕様・単位・数量・計算式で1行⇒

【F1 見積作成】・・・仕上作成で拾い出した材料項目・数量を見積に

転送し、工種別仕分け集計をします。

明細書で数量×単価=金額の積上式金額集計を 行います。

掛率で単価・数量の変更や単価比較をします。 業者から徴収した見積比較表(5社)を作成したり 全工種の明細書を1度にエクセルへ出力できます。







### 積上式見積明細書 画面



## 【F5 サンスケ】図面計測機能

初期画面(物件選択)で【F5 サンスケ】ボタンを押すと下左図になります。 1行目(物件名)を選択して【F1 物件選択】選択すると下右図のようになります。

【図面グループ選択】画面

【計測図面登録•選択】画面



1行目【物件名】・・・図面計測する場所。

2行目【参照図面データ呼出】・・・仕上計算書や見積明細書で参照用の図面を貼付できます。

3行目【AASコピーデータ】

・・・『電子サンスケ』では分業した拾い出しデータを合算処理できます。合算する際に他方から図面も複写 されます。その時、複写してきた拾い出しデータについている計測用の図面をここに保管します。

右図の説明

ここは計測用の図面を取り込んで縮尺設定し計測します。

### 図面計測での作業は4つ 電子図面計測画面

- 【前処理】・・・計測用のTiffファイル作成
- ・計測用の図面を取込みます。(複数同時取込可)
- ・取込図面を縮尺設定します。(X·Y方向で斜めも縮尺補正) 同じ縮尺比は複写で処理可。
- 1:【建具登録】・・・仕上作成でも登録できます。 計測線に配置すると計算式で開口控除します。



2:【図面計測】・・・内部計測・住宅計測・外部計測 にレイヤー(計測場所)が分かれています。 内部は壁内法を外部は外壁表面を計測します。

- 3:【壁属性】・・・・・壁種によって仕上・下地材が異なる為、予め計測線に壁種を色分け 仕上計算書で計算式が壁種毎に別れて作成されます。
- 4:【建具配置】・・・計測線上に建具を配置します。 隣り合う部屋は境壁に1つの建具を配置する事で両部屋の壁・巾木の 控除ができます。以上



### 図面計測での作業のコツと注意点

1:【建具登録】・・・建具登録は開口控除用なので、ここでは建具記号とW・H寸法だけで結構です。 取付位置がOは巾木を引くのが標準。取付位置に数値があれば巾木控除しません。 腰仕上がある部屋の建具は正確に取付位置を入れておきましょう。 建具があっても腰下・腰上の計算式(面積)を正確に作成します。

2:【縮尺設定】・・・計測用の図面は、ビットマップ、ジェイペグ、ティフに対応していますが、Tifファイルがお勧めです。一番ファイル容量が小さくてきれいです。

※Tifは方言のように種類が20種以上あります。Group4(G4)を選択して下さい。 PDFからTif変換する無料ツールがあります。手元にない方は弊社にお尋ね下さい。 ※縮尺設定は大きく拡大して長い寸法を取るとより正確になります。

10回計測して8、9回はぴったりの数値がでます。誤差があっても3cm以内で済みます。 ※役所物件などで1cmの誤差も無くしたい方は【初級編】のコツ(図面拡大)を見て下さい。

- 3:【図面計測】・・・計測開始位置や計測方向の違いで長さや面積の正確性は変わりません。 しかし、壁長がW1・W2・・・Wnのどれかを確認しなくても済むよう普段から展開図を意識 して画面左上を開始位置にして時計回りに計測する事をお勧めします。 直線上でも壁の仕上・下地材が変わる場合はクリックして線分を分断しておきましょう。 (斜めの計測線以外はあとからでも分断できるようになりました。)
- 4:【建具配置】・・・計測線上に建具を配置します。

隣り合う部屋は1つの建具を配置する事で両方の部屋の壁・巾木の控除ができます。 開口補強も自動で拾いますが、配置時に天井、スラブ下のどちらまで高さが必要か 指示します。(建具別)

計測した結果の壁長は計算

式で壁をクリックすればわか

だけど、できればどれがどの壁の長さか確認無しでわ

るんだよ!

### 

- 1:【建具拾い】・・・図面計測からも登録できます。 ここでは建具登録と建具拾いを分けています。
- ・建具登録・・・建具名称・摘要・記号・種別W・H寸法
   塗装係数n・建具取付位置など
- ・建具拾い・・・建具本体(記号・名称)・枠回り材(詰めモルタル 防水シール)・塗装・ガラス・ガラス周りシーリング付属金物・額縁
- 2:【階数・階高・スラブ厚】・・・各情報登録(自動計算式で使用)
- たか 「区分 」面積 完了 「管理 Fired 再計算 S潜 E職 形状 床面積天州面積 周長 1 1 10 10 8.18 (井高 内線高 元井泉津 元井泉津田橋 営倉田橋 仕上田橋 間口田崎 間 口 単 2.73 2.04 0.35 2.10 28.06 11.07 12.35 58.728 計算升二 メン 計算式 2 63 84 3.63 間上書 4.30 計 5.54 2x([ft]+[ft2])-() 3.33 gt 11.07 81 1=12.5 7mTHe L 11.07 同上計 8-50 PBTF98 11.07 間上計 m2 t=20 71/t/7e+3 m2 11.07 BL81 F1 建旦 F2 专2.37 M M 研發錄 F4 複写 F5 行複写 F6 行挿入 F7 行削除 F8 使用材 F10 检索 F12 終了

-

初心者に

3:【計測結果転送】・・・図面平面計測結果の数値を取り込みます。

階高・天井高・腰高(腰仕上)・巾木高の高さ情報と図面計測数値を組合せ計算式を 自動作成します。外部の屋根・バルコニー・廊下なども各室同様です。

- 4:【材料セット】・・・計算書内の各部位の計算式に材料をセットします。
- ・初心者は各室の自動計算結果に直接材料をセットする方がわかり易いと思います。

   積算作業のスピードアップの為に拾いだし方法を3種類説明します。【中級】以上は若干慣れが必要なので
   【初級】で慣れて、拾ったデータ(結果)を多数残すと【中級】以降がやりやすくなります。
   【初級レベル】計算式に直接セット、【初中級レベル】一括修正による仕上表セット

   【上級レベル】指定合成複写による部屋別セットがあります。どれかをマスターすれば必ず直ぐに使えます。
- ・計測結果が表記されるので数値の再利用や一時的に計測し計算式へ数値を転送できます。
- ・LGS・界壁(両面ボード+LGS)・開口補強・耐火シール、木床組・木軸組・木天井下地組なども自動拾いします。
- ・計算書で変数(代数)や、換算係数を用いて単位の異なる材料を同時に計上することもできます。







右図のように計測平面寸法と高さ(天高、内階高)の情報を合わせて計算式 を自動で作成します。

後は、ここに材料をセットするわけです が、計算式は追加、変更で修正できま す。つまり、最初から手拾いのように 計算式欄に直接数値を入れて自分で 計算式を造ることもできるのです。

上図の洋室2は腰仕上があります。 壁の種類は内部の躯体壁(緑色)と 外部躯体壁(橙色)になります。 天井裏・室内全体壁・腰仕上の計算式 が分かれて作成されています。

床・巾木・壁・天井・廻縁と各部位の計 算式も作成されています。 開口控除は建具取付位置を意識して 腰仕上・腰上を分けて行われています。

左図の計算式行(洋室2)の各部位の 材料を1秒で材料セットする機能が 【指定合成複写】なのです。

当建物に使われている壁材料の種類 をでき限り多くセットすることで、色々 な部屋に材料表の元が活用でき、短 時間で材料を複写セットできるように なります。

★壁種ごとに計算式が分かれている ことで、材料セットが一度に行えるので す。これこそが、当ソフトの最大のメ リットなのです。

3 計算書入力[某]	氏住宅新築工事]¥住	E宅¥洋室2										
計算数値 変更	「壁」			г	チェック 完了 □	区分 管理	□ 面積 fryp		図面名 取 図面表 F9 将 込 示 F9 将	济号+	再計算 ?	
, <del>.</del>	内部区分名 具体部屋名 住宅 洋室2	S階 E	S噌 回贈 形状 床面積天井面積 周長 X Y 2 2 □ 9.88 9.95 12.98 2.42 4.07  注半 中二 へ 自動公式なし マ									
対象7107回積7007面積707面積率平均内階高天井高内階高天井裏復 2 24 30 40 533 2,85 2,50 3,05 0 3												
		W1 W2 W	3 W4	0.00	4.04 02.4	FJ 10	0.00 10.000				µ1 <del>21</del> /2//	
	1	2.42 4.07	2.42 4.07									
行 材料N 全和 工種N	lo 区分 lo 部位	名 称1 名 称2	仕 様1 仕 様2	単位	换算係数 数 量	+/-	変 数 計算結果		イ 火 ヒ 世 注 行		^	
	床	材料 未指定		m2	9.85	計	9.85 [W1]*[W	2] E	れだけの部位	に仕上材も		
								下	「地材も含めて。	。。。全部を	: <b>\</b>	
	巾木	材料 未指定		m	9.79	ŝ†	12.98 2*([₩1]	+[₩2])	1秒でセットす	るの?		
5	巾木			m		-	3.19 (WD1:W)	+(AE2:W)+(AD2:W)	洋室2】は腰仕	上もあって		
6							内壁19		かもそこに建具	11ある1	- <u>5</u> 1	
7	壁	材料 未指定	内壁1天井裏	m2	1.33	計	1.33 ([W3])* 内壁1	0.55	27項日	ັ ທ	<u>e</u> –	
8	壁	材料 未指定	内壁1	m2	2.93	計	6.05 ([W3])* 内壁1・	2.50	材料がからされ	てるディ		
9	壁			m2		-	1.40 (WD1:WH	)	うっそー ! マ	じかとし		
10 16		片開き木製ドア		m		建具	WD1:700	.0x2000.0	リアビー:マン	> /J·& :		
11		district in the print	-4-04 - 0 <b>2</b> -7		1.00	=1	内壁1	腰下・・	速いる	-		
12	9 <u></u>	1017 不信止	四重1 版下	m2	1.76	- 1		1.00 腰下・・ 00)*(町1:10)				
13	路	材料 未指定	外辟内部1 王井車	m2	5 81	#4	0.70 (1.00-0 <mark>外壁内音</mark> 5.81 (「W1]+「	.000*(mb1:m) 第1天井裏 W2]+[W4]):x0 55				
14	段	材料 未指定	外壁内部1	m2	13.35	솱	26.40((191]+( 外壁内音 26.40((191]+)	%1 · · · %2]+[W4])≭2 50				
15	壁	NAL TABLE	7 Tudat VHP A	m2	10100	-	<mark>外壁内音</mark> 4.98(AE2:WH	1 · · · · )+(AD2:WH)				
16		アルミ2枚引き違い戸		m		建旦	AE2:180	0 0x2000 0				
17		ビ棚きアルミドア				神日	102-200	0.2000.0	マジ	です!		
18		//me///sr/		m		建長		• • • •		• / ·		
19	D+	++**			0.07	ai.	<mark>外壁内部</mark>	81 腰下 201 - 「肥下」				
20	<u>堂</u>	材料 木帽正	外壁内部1 腰下	mį	8.07	- ā1	10.56 ([M1]+[ <mark>外壁内</mark> 部	WZJ+LW4JJ*I.UU 『1 腰下	N		-	
21	壁			m2		-	2.49 (1.00-0	.00)*(AE2:W)+(1.00-0.00)	)*(ADS:H)	Α		
22										<b>.</b>		
23	天井	材料 未指定		m2	9.85	計	9.85 [W1]*[W	2]	512	<u>5 C</u> 2		
24												
	<b>迶縁</b>	材料未指定		m	12.98	計	12.98 2*([W1]	+[\\2])				
(AE2:WH)	) + (AD2 : WH	)										
	1	1	1		1		1	1		1		
F1 列	<b>連</b> 具	F2 サンスケ M M 登録	录 F4 複写	F5 行複等	7. F6	行損	■入 F7 行肖	<b>I除</b> F8 使用	材 F10 検索	F11行移動	F12 終了	

計算式は自動作成しただけでなく、その後、一部、材料を控除したり、不足分を足したり自由にいじること ができます。その結果、各部位の総合計数量が積算者の意志に反して異なってしまうこともあります。 そこで、計測結果が計算式の上部に表示されますので、計測した結果と、計算式欄で使用された各部位 の合計数量を突合せ、数量に違いがでると、黄色や赤色の警告で、ミスの可能性をチェックしています。



## 見積書作成での作業は3つ

1:【工種別見積書作成】

<手動工種別見積書作成>

・まだ見積書が1つもない状況で見積作成に入ると
 右図下のメッセージのように空の総括表を造るか?
 促してきます。仕上データを取り込む場合は【いいえ】を選択しますが、手動で見積書を作る時は受皿を作る為【はい】
 を選択し、各工種明細を作成した所に明細を書き込みます。

#### <自動工種別見積書作成>

- ・仕上作成データ取込みで拾い別見積書が自動作成されます。
   それを工種別変換すると工種別見積書が自動作成されます。
   ・単価入力、掛率設定し提出見積書を作成します。
- エクセル出力・・・エクセルデータとして総括表以下の 全ての工種別明細書の出力ができます。
- ※見積書プログラムの良い所は工種別明細書を自動作成することです。 積上式の見積書を作成し、計算式から正確に写し正確な積上集計をします。 エクセル等で組むと、計算式にミスがでたり、式そのものが無くなったり壊れたりする ことがあります。専用見積書プログラムは正確な金額が出せるので安心です。
- 2:【エクセル明細書自動取込】・・・工種別エクセル明細書を自動で取り込みます。 数量明細書は自社作成でも、他社が作成したものでも自動取込みできます。
- 3:【5業者比較見積作成】・・・自社で作成した工種別のエクセル数量明細書をお取引先が値入して返すと 1工種5社までの比較見積表を自動作成できます。 各工種の最終採用単価を指定すると提出用見積書は自動で作成されます。







# 初心者用【総合メニュー】を現在く作成中>です。

現在の物件選択メニューは残しますが、それとこの総合メニューを併用できるようにします。 作業の流れがわかり易いことと、いきなり作業したい画面に移動できるようになります。

表No.	データバックアップ データ復	帰	データ移動 ドライブ設定 デ	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	変換 Hasp更新 各種設定	72	スターデータ初期値セット ベージョ	ン情報					
	物件												
	物件選択(全体登録)												
表No.	表示名称	表No.	表示名称	表No.	表示名称	表No.	表示名称	表No.	表示名称				
	【図面計測システム】		【仕上積算システム】		【見積書自動作成システム】		【オブション】		【バックアップと復帰】				
101	計測物件新規登録	201	階高入力(階・階高・スラブ厚)	301	AASから変換	401	概算チェック表作成	501	物件別データバックアップ				
1.02	物件選択		Ţ		(仕上データ → 見積書へ転送)		(計測面積 計算書付きあわせ)	502	圧縮バックアップ(物件別)				
1.03	図面取込	202	サンスケ計測データ転送		Ļ	402	見積内訳明細並替え	503	圧縮バックアップ(物件別)(画像無)				
104	縮尺設定		(高さ情報から自動計算式作成)	302	工種別見積へ変換		(見積Aを参照してBを並替え)	504	マスター圧縮バックアップ				
1 05	図面計測		Ļ		(拾いデータ → 工種別仕分集計)	403	階別タイプ別集計表						
	(場所別計測)	203	仕上拾い 明細選択		<ul><li>(·一括工種別集計)</li></ul>		(面積表作成ツール)						
	(壁属性セット)	204	<材料セット>		<ul><li>(・場所別工種別集計 → 合算処理)</li></ul>	404	名称・仕様 有効文字数チェック		【マスターメンテナンス&設定】				
106	建具登録		(仕上表から仕上下地組合せセット)	303	拾い区分別明細の合成		<ul><li>(文字オーバー検索)</li></ul>	601	材料マスター				
	(建具配置)	205	<仕上表> セット		Ļ	405	確認データ登録	602	工種マスター				
107	参照図面取込		(材料表から場所別仕上セット)	304	見積明細作成		(仕上計算書·見積明細書存在検索)	603	部位マスター				
			Ļ		(明細書 並替・整え・移動)		Ļ	604	区分マスター				
108	AASコピー	206	指定合成複写		(参照図面貼付け)	406	AAS仕上存在チェック	605	区分グループ				
	(物件以外からの複写結果)		(205 → 203へ材料複写)	305	掛率計算	407	AAS建具存在チェック	606	単位マスター				
	(仕上積算で他物件複写実行)		1	306	自動明細並替え	408	AAU存在チェック	607	建具マスター				
	<b>↓</b>	207	仕上拾い出し計算書		Ļ			608	得意先マスター				
109	集計結果		(計算式詳細設定:参照図貼付)	307	ブーメラン(エクセル出力)	409	明細置換	609	公式マスター				
	(集計 階·名称·倍数修正可)				(業者へエクセル数量明細書送付)		(材料名称·仕様·単位一括置換)	610	種別マスター				
	↓ 	208	仕上材料一括変更		(業者からエクセル数量明細書受取)			611	各種設定				
110	部屋名登録	209	建具材料一括変更			410	AAS材料未指定の名称変更		(仕上·見積書 固定設定)				
	(住宅計測 使用部屋名称追加変更)	210	自動(LGS・界壁)拾い出し		【個別コマンド】		(仕上計算書 材料未指定名称変更)						
	【物件情報】		(LGS・開口補強・耐火壁自動拾い)	308	5社比較見積								
	物件No 某住宅06	211	マーキング計測(雑拾い)	309	自動値入機能	411	木拾い電卓						
L	物件名:某氏住宅新築工事・・・・		(個数・長さ・面積を倍数拾い)	310	教量根拠表		(床組·壁木軸組·天井木下地)						
	取5 元:AA一級建築士事務所	212	木指い電卓	311	他物件からのコピー		1		やっと、プログラム上に				
	設計争務所:AA一級建築士争··		(木床組・壁木軸組・大井ト地組)			412	マーキング計測		ムが必担すてギリ				
	運物用途:個人住宅	213	建具周り材料指い出し		【出力】(印刷・エクセル出力)		(ケ所・長さ・面積計測配置)						
	框別:(④RC)适		(枠回り材・かうス・塗装・部品)	312	BCS.CSV読込		(指いの根拠を図面転記)		↓ ヘルプで助けてあげるよ				
<u> </u>	(構造: RC)适 (清約末11-4002)	214	【出力】(印刷・エクセル出力)	313	BCS.CSV保存(単価あり)								
	建発面積:100m <sup>6</sup>	-	111日に 日本	314	BCS.CSV保存(単価悪し)								
	奥味面積:105mm PBE#5、APBE ちィージャト・オー	-		315	日期階層作成								
		-	宿列朱訂衣 达分列朱訂衣	04.0									
<u> </u>	地上階:2 地下階:0 PH:0	-	建具朱計衣・進具指い計算者	316	衣纸印刷				<b>ह</b> ।				
<u> </u>	TF成日:2015年7月17日   またまい演制	-	建具有い出し明細	317	97801110				ST 25 70				
	耳に右・惚忪	<u> </u>	山村司昇音・行い区田						物件選択面面へ				
	提出日:2015年7月30日		在上来計表 計昇日次										

画面はイメージで実物は多少異なる事があります。

